



未来へつなぐ町づくり

令和5年第1回長島町議会定例会において、川添健町長が「令和5年度施政方針」を述べました。



はじめに

昨年は4月の町長選挙において無投票の選出をいただき、責任の重さと公約いたしました施策の期待に応えるべくスタートダッシュしたところでございます。

新型コロナウイルスの感染が国内で初めて確認されてから3年が経過し、コロナ禍における社会の変化は、新たな学びや価値観を与えております。行政手続きのオンライン化の促進やデジタル端末を活用した学習・会合の実践など新たな仕組みが構築されました。

また、人との直接的な交流をもてない状況において、相對することの大切さや互いに支えあえる地域社会の重要性を認識することとなりました。

昨年11月には近隣の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザが相次いで発生し、県を中心として防疫措置が実施されました。本町といたしましても、防疫作業などへの協力や町内の発生防止対策などを実施してまいります。

ました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大におきましても気の落ち着かない日々が続ぎ、イベントなどの中止もやむを得ない時期もございました。



獅子島ウォーク 2023

一方、長島フェスタや長島一周駅伝競走大会、ウォーキング大会など規模を縮小しながらではございますが開催

活の安定を図る農業、漁業の振興に新たに取り組み、全国離島のモデルをつくってまいります。

学校統合再編

合併以来の懸案である学校再編の中で、中学校の1校統合問題が提起されています。

将来を担う子どもたちを第一に考え、財政との調和を図りながら、不転の決意で町民の合意を図ってまいります。

できるようになってまいりました。

獅子島では新たに恐竜の化石が発見され、新造船のフェリー「ロザリオ・カーム」も就航いたしました。

本年5月には新型コロナウイルスを高い危険



新たに就航した「ロザリオ・カーム」

度を示す「2類相当」から、インフルエンザと同等の「5類」へと引き下げ、社会経済活動が正常化することが期待

や脱炭素に向けたGX（グリーントランスフォーメーション）などの取り組みとして、「書かない窓口」やマイナンバーカードの活用拡大などによる住民サービスの向上、自然エネルギーを活用した脱炭素社会などを推進してまいります。

されます。

経済が回復へ向かう中、今は本町の歩みを加速させる転機と捉えております。コロナ禍において得られた知見を生かし、これまでの施策をさらなる躍進への足掛かりとして「未来へつなぐ町づくり」を進めてまいります。

危機管理の対応

長島町は新型コロナウイルス感染症はもちろん、赤潮や鳥インフルエンザのほか、台風や豪雨、異常気象などの自然現象に直面しております。

まずは人命や財産を守り、町民の不安を和らげる対応を図っていきけるよう努めてまいります。

獅子島振興

昨年11月に離島振興法が改正され、獅子島を含む一部離島において「架橋促進」の考え方が盛り込まれました。この改正離島振興法が獅子島架橋の実現に向けた、大きな第一歩となると期

で県下に誇りの持てる産業の活性化が図られてまいります。

このほか、長島・天草・島原間の三県架橋や南九州西回り自動車道、阿久根・鹿児島空港間の北薩横断道路などの整備を急ぐとともに、阿久根・長島間の高速道路整備を見える形で取り組み、交流・関係人口の増加が図られるようなサンセットの丘整備も進めてまいります。

子育て

多岐にわたる施策も活力も、健全な財政との調和が必要不可欠でございます。要所所には十分に気配りし、長期を展望しながら魅力ある長島町づくりに努力してまいります。

新たな課題の解決に努めながら、子どもにはわくわくする「夢」を、働く人々には生き生きとした「活力」を、子育て世帯や高齢者、弱者にはお一人おひとりを大切に「福祉の充実」した町づくりにまい進してまいります。



10月に開催した三県架橋推進地方大会

また、獅子島には民間の子育て支援の施設がないため、町が責任を持って整備する必要があります。同時に、生



長島町立小中学校等統合再編推進委員会

デジタル活用でサービス向上

本町は、デジタル社会を目指すDX（デジタルトランスフォーメーション）



「書かない窓口」

町民ファーストの政治

私は終始一貫して、政治は町民ファーストであるべきと考えております。町民の皆さんが生活する中で満足感、充実感を得られ、誇りと自慢を持てる町づくりを具体的に進めてまいります。

その結果、農業、漁業の第1次産業

